

予 算 要 求 資 料

令和8年度当初予算

支出科目 款：総務費 項：企画開発費 目：青少年対策費

事業名 姉妹県青少年ふれあい事業費

(この事業に対するご質問・ご意見はこちらにお寄せください)

子ども・女性部 子ども・女性政策課 青少年係 電話番号：058-272-1111(内3520)
E-mail : C11239@pref.gifu.lg.jp

1 事 業 費 2,468 千円 (前年度予算額： 2,002 千円)

<財源内訳>

区分	事業費	財 源 内 訳							
		国 庫 支出金	分担金 負担金	使 用 料 手数料	財 産 入 収	寄 附 金	そ の 他	県 債	一 般 財 源
前年度	2,002	0	0	0	0	0	200	0	1,802
要求額	2,468	0	0	0	0	0	300	0	2,168
決定額									

2 要 求 内 容

(1) 要求の趣旨（現状と課題）

本県と鹿児島県は、昭和46年7月に姉妹県盟約を締結して以来、人的交流をはじめ観光・農業などの産業分野やスポーツ・防災など幅広い分野での交流を実施してきた。

そのなかで、昭和47年から両県の青少年の訪問交流を実施しており、次代を担う人材が歴史と自然を通して先人の残した偉業を学ぶことで、郷土建設への意欲を高めるとともに、協調性、自立性を育成している。

(2) 事業内容

【隔年訪問】本県と鹿児島県の青少年が1年交代で訪問する。

- ・令和7年度は、岐阜県青少年20名が鹿児島県を訪問し、鹿児島県青少年19名とともに、宝曆治水の史跡の観察やグループ討議等の交流事業を実施。
- ・令和8年度は、鹿児島県青少年が来県する予定。
- ・本事業に参加した青年が中心となっている民間の交流団体（岐阜県「さつまの会」、鹿児島県「美濃の会」）が本事業及び事前研修の運営を支援。

(3) 県負担・補助率の考え方

	岐阜県負担	岐阜県参加者 自己負担 (岐阜県収入)	鹿児島県負担	鹿児島県参加者 自己負担
鹿児島県訪問年	往復交通費	1.5万円×20名	滞在経費全て	1万円×20名
岐阜県受入年	滞在経費全て	1.5万円×20名	往復交通費	1万円×20名

(4) 類似事業の有無

無

3 事業費の積算 内訳

事業内容	金額	事業内容の詳細
旅費	105	
消耗品費	44	
委託料	2,304	参加者移動費、宿泊費、交流活動の実施等
使用料及び賃借料	15	会議室借上
合計	2,468	

決定額の考え方

（記入欄）

4 参考事項

(1) 各種計画での位置づけ

第5次岐阜県青少年健全育成計画

事 業 評 價 調 書 (県単独補助金除く)

<input type="checkbox"/> 新規要求事業
<input checked="" type="checkbox"/> 継続要求事業

1 事業の目標と成果

(事業目標)

- ・何をいつまでにどのような状態にしたいのか

本県と姉妹県盟約を締結している鹿児島県との間で青少年の訪問交流を実施することで、宝曆治水などによる両県との関わりについて次代を担う若者の理解、認識を深め、後世に渡り両県の友好関係を継続していく。

(目標の達成度を示す指標と実績)

指標名	事業開始前 (R)	R6年度 実績	R7年度 目標	R8年度 目標	終期目標 (R)	達成率

○指標を設定することができない場合の理由

鹿児島県との交流が目的であるため、指標を設定することになじまないため。

(これまでの取組内容と成果)

令和4年度	令和4年7月22日（金）～令和4年7月25日（月）に鹿児島県の青少年が来県し、鹿児島県青少年18名と岐阜県青少年20名が交流を行い、両県の理解を深め、友好を深めることができた。
令和5年度	令和5年7月21日（金）～令和5年7月24日（月）に岐阜県県の青少年が鹿児島県を訪問し、鹿児島県青少年20名と岐阜県青少年19名が交流を行い、両県の理解を深め、友好を深めることができた。
令和6年度	令和6年7月26日（金）～令和6年7月29日（月）に鹿児島県の青少年が来県し、鹿児島県青少年20名と岐阜県青少年20名が交流を行い、友好を深めることができた。
指標① 目標：____ 実績：____ 達成率：____ %	

2 事業の評価と課題

(事業の評価)

・事業の必要性(社会情勢等を踏まえ、前年度などに比べ判断)

3：増加している 2：横ばい 1：減少している 0：ほとんどない

(評価) 2	姉妹県盟約による友好交流を促進するとともに、次代の交流人材の育成を推進するため、必要性が高い。
・事業の有効性(指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか)	
3：期待以上の成果あり 2：期待どおりの成果あり 1：期待どおりの成果が得られていない 0：ほとんど成果が得られていない	
(評価) 2	参加者からは、他県、異年齢間の交流を通じ、知見が広がったなどの意見が寄せられた。また、参加した青少年の自主性・協調性が養われ、青少年の健全育成にも大きな効果が得られている。
・事業の効率性(事業の実施方法の効率化は図られているか)	
2：上がっている 1：横ばい 0：下がっている	
(評価) 1	青年、少年の訪問を合同で実施することや、両県を1年ごとに交互に訪問するなど、効率化を図っている。

(今後の課題)

・事業が直面する課題や改善が必要な事項

姉妹県交流を充実したものとするため、幅広い地域、層から参加者を募る必要がある。

(次年度の方向性)

・継続すべき事業か。県民ニーズ、事業の評価、今後の課題を踏まえて、今後どのように取り組むのか
引き続き、両県の歴史、文化、施策などを学び、交流事業の内容を充実していくとともに、両県市町村や民間の交流に進展させていく。

(他事業と組み合わせて実施する場合の事業効果)

組み合わせ予定のイベント 又は事業名及び所管課	【○○課】
組み合わせて実施する理由 や期待する効果 など	